

#### 44 臨床検査という言葉の発祥と内容

### の史的推移―特に臨床検査技師の 発展との関連について

谷 島 清 郎

医療及び保健衛生諸機関における医学的検査に従事する技術者として、専門職種である臨床検査技師と衛生検査技師が存在する。このうち、後者の衛生検査という言葉の由来については既に報告したが（衛生検査、二十巻一号、昭和四六年）、今回は、前者の臨床検査という言葉の発祥について調査した結果を報告し、併せてこれら技師養成機関で用いられている学科やコースの名称について医学史的な考察を加えた。

調査の対象は、これらの技師の業務が「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」で病理組織学的、微生物学的、生理学的検査等の検査方法別に定義されているので、このような医学的検査業務が行われていた場所や教育機関の名称、書籍雑誌記事とし、以下の結果を得た。

すなわち、以上のように定義した業務に対して、臨床検査という名称が用いられたのは、大正九年の県立神戸病院（現在の神戸大学医学部附属病院）における臨床検査部の設置が最も早く、建物も独立していたようである。日本赤十字社病院も、早くから医学的検査業務を独立、専門的に取扱っていたが、診療業務の中にそれを臨床検査という項目で明記したのは昭和四年であった。成書については、昭和五年、額田豊、額田晋共著の『近世内科臨床診断学』の第九版の序に、『臨牀的諸検査法』という言葉が使われている。第八版は資料の入手ができなかったが、第七版では未だ用いられていない。また、同年には、上田春治郎著の『内科臨牀検査法』が発刊された。その他、『眼科臨牀検査法』、『臨牀的尿検査法』、『臨牀検査技術提要』等の成書もみられ、臨床を臨牀としているが、この言葉は、尿や便、血液、細菌の検査、病理組織学的検査等の診断、治療のために必要な検査を指して大正から昭和の初めにかけて用いられるようになったと推察された。

これ以前の状況については、医学史上もよく知られて

いるごとく、公衆衛生面と医療面に分れて発達しており、明治中期より、前者では衛生試験所や衛生検査所の名称が用いられ、後者では陸軍海軍病院の病理試験室や病的検査室の名称があった。日本赤十字社病院に病理試験室が建造されたのは大正三年であったが、この頃に臨床検査という言葉はみあたらない。ただ、岩手医学専門学校の場合は、丁度この大正から昭和への移行期と反映するものとして興味がもたれる。すなわち、昭和三年に当専門学校に衛生検査部が設置されたが、その事業内容としては、喀痰、尿、便の検査、肺活量や特殊な医学的検査があげられており、明らかに現在の法律でいう臨床検査技師の業務を対象にしていることが分る。ただし、部門の名称は衛生検査部であり、したがって、この辺を境に公衆衛生面の衛生検査という言葉から医療面における臨床検査という言葉へ移行していった様子が伺える。

近年、臨床検査技師の教育養成制度がようやく四年制大学教育に移行しつつあるが、そこで使用される学科やコースの呼称は衛生技術や検査技術科学である。これまでの三年制の専修学校や短期大学においても同様であ

り、今回調査した臨床検査という言葉の発達、また、以前から明らかになっていく衛生検査という言葉の内容からみると違和感のあることは否めない。臨床検査技師を教育養成する学校機関で、それを端的にイメージする臨床検査という言葉を用いることができない何らかの理由があるのだろうか。医史的な立場から、専門職として医学的検査に従事する技術者の名称に対しての方向性を示して行かなければならないと思われた。

(金沢大学医療技術短期大学部衛生技術学科)